

言葉の力

うちだ ふみこ
内田 文子 ●電機連合・中央執行委員

「言葉には力がある」と思うことが多々あります。何気ない「言葉」に元気をもらったり、励まされたり、逆にきつい「言葉」に落ち込んだりすることってありませんか。

先日こんなニュースを見てとても心が和みました。「今年4月、那覇市内の男子高校生Aさんが空港に向かう途中で航空券代（6万円）が入った財布を落とし途方に暮れていた時、その場に居合わせた見ず知らずの男性が6万円を貸して窮地を救ってくれた。男性は連絡先も聞かすにお金を渡してくれたという。後日、Aさんが『お金を返してお礼が言いたい』と新聞記事で呼びかけると、埼玉県の男性と判明。5月に沖縄で再会した。Aさんは『直接お礼が言えてほっとしています』と語った。」困っているAさんに言葉をかけ、お金を貸した男性の行動も、またお金を借りた後のAさんの行動も素敵だと思いました。

話は少し変わりますが、私はコミュニケーションの基本は「おはよう（挨拶）・ありがとう（感謝）・ごめんなさい（謝罪・素直さ）」だと思っています。誰でも使える言葉です。子どもたち（現在中3と小6の男の子）には「おはよう・ありがとう・ごめんなさい」がきちんとと言える子に育ててほしいと小さいころから事あるごとにその思いを伝えてきました。

そんな子どもたちのエピソードをひとつ紹介します。先ほどのニュースのように「ありがとう」という言葉をいろいろな場面で言ったり、言われたりすると思います。よほどの特殊な状況でない限り「ありがとう」を言った方も、

言われた方も嫌な気持ちにはならないと思います。私も何かをしてもらったときはちょっとしたことでも「ありがとう」を伝えるようにしています。そんな「ありがとう」の中で忘れられない「ありがとう」があります。それは次男が生まれた時のことです。長男は当時3歳でした。

次男が生まれる前、長男には「（彼が使っていた）ベビーカーも弟に譲らないとね」とか「もうすぐお兄ちゃんだね。お世話してね」などと話をしていました。長男にとっては、今まで「自分だけ」だったものが、生まれてくる弟のために譲らなければならなかったり、周りにもいろいろな変化が起こったりで、弟ができる喜びと同時に寂しい思いもたくさんしていたのではないかと思います。

そんな中、次男が生まれた時、分娩室に入らなかった長男は分娩室の入り口から、とても大きな声で「お母さん、赤ちゃんを産んでくれてありがとうー！」って叫んでくれました。その言葉にとっても感動し、涙が止まりませんでした。3歳でこんなにすてきな「ありがとう」を言えるなんて。

この日以来、この「ありがとう」は、私の中で忘れられない大切な言葉になりました。今でもこの「ありがとう」を思い出すとやさしい気持ちになれ、また励まされているような気持ちにもなり、いつも私を支えてくれています。「言葉の力」はすごいと感じます。「言葉」にして伝えることの大切さを3歳だった息子から学びました。